

「未来に残したい草原の里 100 選」 第 4 回選定地域が決まりました

- 美しい草原の風景を残す地域を 100 選として選ぶ国内初の取り組みで、2022 年度から始まり、過去 3 回の選定で合計 53 箇所の草原の里が選定されました。
- 2025 年 4 月に第 4 回の選定があり、全国から新たに 4 箇所が選定されました。
- 選考委員会は、湯本貴和京都大学名誉教授（委員長）、養老孟司氏などからなります。

- 草原がつくる風景は広々として心地よく、どこか懐かしい気持ちになります。かつて草原は、茅葺き屋根の材料を得たり牛馬を放したりと、日本の暮らしを支える存在でしたが、今では国土の 1%にまで激減しました。一方近年では、観光資源として優れ、多くの希少動植物が暮らすなど、多様な価値が見直されています。こうした草原の維持活用には、人の営みが不可欠であることが特徴と言えます。

- そこで、「全国草原の里市町村連絡協議会」（会長：日野康志 九重町長）では、全国に残る草原とその里に光を当て、人と自然の関わりの中で培われてきた知識や技術、人々の想いを次世代へ受け継ぐため、国内初となる「未来に残したい草原の里 100 選」の選定事業を 2022 年度より開始しました。2022～2024 年度の 3 回の選定で、全国から 53 箇所の草原の里が選定されました。



未来に残したい
草原の里
100選

- 2024 年秋より第 4 回の募集を始め、2025 年 4 月に複数の有識者からなる選考委員会（委員長：湯本貴和京都大学名誉教授）が開催されました。新たに 4 箇所の地域が、「未来に残したい草原の里 100 選」として選定されました。
- 計 4 回の選定を経て、「草原の里」の総数は 57 箇所となりました。



■ 本リリースに関するお問合せ

全国草原の里市町村連絡協議会 事務局 担当：大津、帆足

〒879-4895 大分県玖珠郡九重町後野上 8-1 九重町役場 住民環境課 環境グループ

Tel: 0973-76-3802 Email: sogen100@sogen-net.jp メールアドレスへのご連絡を推奨しています。

＜資料 1＞ 今回選定された「未来に残したい草原の里 100 選」の名称および位置

番号	草原の里名称	所在市町村
1	きたかみがわかこういき はら 北 上 川 河 口 域 の ヨ シ 原	宮城県石巻市
2	いけがはらしつげんほぜん・かつようきょうぎかい 池ヶ原湿原保全・活用協議会	福井県勝山市
3	やまだぼくじょう 山 田 牧 場	長野県高山村
4	かなべこうげん 神 鍋 高 原	兵庫県豊岡市



<資料 2> 選定地の連絡先

番号	都道府県	草原の里名称	応募団体
1	宮城県	北上川河口域のヨシ原	特定非営利活動法人りあすの森
2	福井県	池ヶ原湿原保全・活用協議会	池ヶ原湿原保全・活用協議会
3	長野県	山田牧場	山田牧場を愛する会
4	兵庫県	神鍋高原	一般社団法人日高神鍋観光協会

＜資料 3＞ 未来に残したい草原の里 100 選について

趣旨

かつて、日本の暮らしは草原によって支えられてきました。縄文時代から建築物に茅が使われはじめ、農耕が始まってからは、肥料や敷草、堆きゅう肥の材料として、また、物資の運搬や耕耘などの作業を担う牛や馬の飼料として草が必要でした。ワラビやゼンマイなどの食物、衣料としての苧麻（カラムシ、チョマ）、センブリやオトギリソウなどの薬草を得る場として、あらゆる面で草原の恵みを受けながら、暮らしが営まれてきました。限られた土地の中で資源を最大限に活用するため、草原を利用するルールや火入れ（山焼きや野焼きなど）の技術が日本各地で生み出され、引き継がれてきました。草原と共にある暮らしはさらに、秋の七草を愛で、盆には草花を備えるなど、豊かな心情や文化も醸成してきました。

しかし、高度経済成長期以降、草原は国土の 1%にまで激減しています。

失われつつある草原の自然と人々の営みをめぐって議論を重ねる中で、草原のある里で育まれてきた「過去のものと思われていた」技術や知恵こそが、これからの持続可能な社会を実現する上で欠かせないものであることが分かってきました。そこで、2018 年 7 月 4 日に、全国 23 自治体の首長が組織する「全国草原の里市町村連絡協議会（連絡協議会）」は環境省に「全国草原の里 100 選」の検討を進めていくことについて要望書を提出し、連絡協議会として選定事業を推進しています。

「共創資産」を引き継ぐ

地域における草原と向き合い方は、人々の草原への働きかけと草原からのフィードバックが繰り返されることで、経験的に紡がれてきたものです。人と自然との長年にわたるやり取りにより地域に蓄積された知識・意識・技術、それこそが草原の里が持つ価値です。この価値あるものを「共創資産」と捉えました。日本各地の草原の里にはそれぞれに共創資産が残されているはずで、各地に残る「共創資産」を日本全体で共有し、活用していくことで、次世代に希望のある自然共生型社会をつくるのが「未来に残したい草原の里 100 選」を実施する目的です。

選定の視点

草原の生態系と人々が暮らす里との関係性が作りだした「共創資産」を軸に、以下の観点から選考を行います。

- (1) 生物多様性の保全
- (2) 草原を維持するしくみや、価値を享受するしくみ
- (3) 草原に対する思いの強さ
- (4) 共生型社会の実現に向けた波及効果（ロールモデルとしての期待）

未来に残したい草原の里 100 選 選考委員会：

委員長 湯本貴和（京都大学名誉教授）および学識者等の有識者によって構成 ＜資料 4＞

主 催：全国草原の里市町村連絡協議会

後 援：環境省、農林水産省

協 力：日本自然保護協会、日本茅葺き文化協会、全国草原再生ネットワーク

＜資料 4＞ 未来に残したい草原の里 100 選 選考委員会名簿

（委員長）

湯本 貴和 京都大学名誉教授、京都芸術大学客員教授、公益財団法人日本モンキーセンター所長

（委 員）

安藤 邦廣 筑波大学名誉教授、一般社団法人日本茅葺き文化協会代表理事

河野 博子 ジャーナリスト、一般財団法人自然環境研究センター理事

高橋 佳孝 一般社団法人全国草原再生ネットワーク代表理事

長沢 裕 タレント、公益財団法人日本環境教育フォーラム理事

中村 義明 長野県小谷村長、全国草原の里市町村連絡協議会会長

町田 怜子 東京農業大学教授

養老 孟司 東京大学名誉教授

（2025 年 4 月 10 日時点、敬称略、五十音順）

＜資料 5＞ 今後の予定

2025 年夏～秋 認定書授与式

未来に残したい日本の草原 2025（仮称）冊子の作成・公表

第 5 回選定の公募開始

2026 年春頃 第 5 回選定

＜参 考＞

全国草原の里市町村連絡協議会について

草原をもつ自治体間の連携と草原保全を進めることを目的として、2016 年 11 月に発足しました。現在、31 市町村により構成されています（現事務局：大分県九重町）。2019 年の定時総会において、「未来に残したい草原の里 100 選」の選定事業を進めていくことを決めました。

■ 本リリースに関するお問合せ

全国草原の里市町村連絡協議会 事務局 担当：大津、帆足

〒879-4895 大分県玖珠郡九重町後野上 8-1 九重町役場住民環境課 環境グループ

Tel: 0973-76-3802 Email: sogen100@sogen-net.jp

メールアドレスへのご連絡を推奨しています。

参考

【第一次選定（2022）～第三次選定（2024）の草原の里（53 地区）】

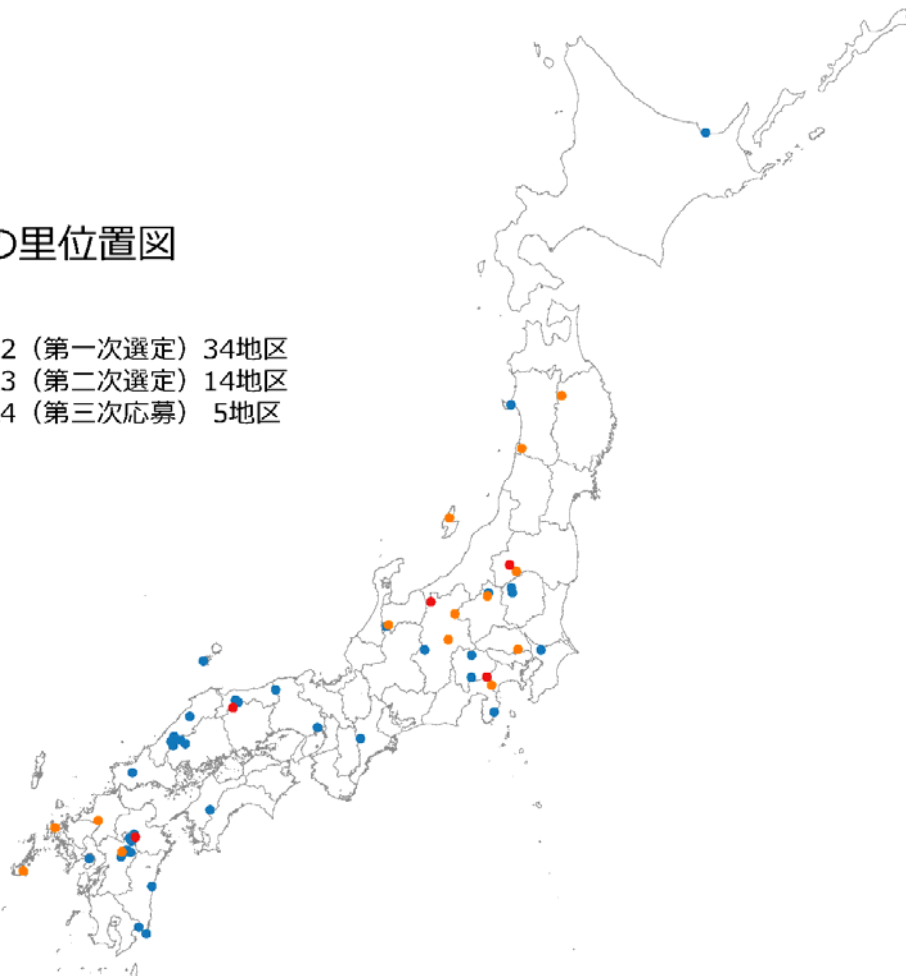
草原の里位置図

【凡例】

青：2022（第一次選定）34地区

橙：2023（第二次選定）14地区

赤：2024（第三次応募）5地区



番号	選定年	草原の里	所在地
1	2022	小清水原生花園	北海道小清水町
2	2022	寒風山	秋田県男鹿市
3	2022	土呂部の草原を次代にー日光茅ボッチの会	栃木県日光市
4	2022	キスケ平	栃木県日光市
5	2022	入会の森「上ノ原茅場」	群馬県みなかみ町
6	2022	谷田武西の原っぱと森の会	千葉県印西市
7	2022	富沼	富山県南砺市
8	2022	乙女高原ファンクラブ	山梨県山梨市
9	2022	木曾町開田高原	長野県木曾町
10	2022	富士宮市根原区朝霧草原	静岡県富士宮市
11	2022	稲取地区特別財産運営委員会	静岡県東伊豆町
12	2022	東お多福山草原	兵庫県神戸市
13	2022	上山高原	兵庫県新温泉町
14	2022	曾爾高原を守る会	奈良県曾爾村
15	2022	大山隠岐国立公園鏡ヶ成保全再生活用協議会	鳥取県江府町
16	2022	三瓶山麓草原の里	島根県大田市
17	2022	西ノ島町	島根県西ノ島町
18	2022	蒜山高原	岡山県真庭市
19	2022	深入山	広島県安芸太田町
20	2022	芸北	広島県北広島町
21	2022	秋吉台	山口県美祿市
22	2022	大野ヶ原の草原	愛媛県西予市
23	2022	奥雲仙田代草原	長崎県雲仙市
24	2022	阿蘇市	熊本県阿蘇市
25	2022	阿蘇・南小国町	熊本県南小国町
26	2022	熊本県小国町	熊本県小国町
27	2022	産山村	熊本県産山村

番号	選定年	草原の里	所在地
28	2022	高森町	熊本県高森町
29	2022	南阿蘇村	熊本県南阿蘇村
30	2022	御船町	熊本県御船町
31	2022	くじゅう飯田高原	大分県九重町
32	2022	都井岬	宮崎県串間市
33	2022	笠祇・古竹草原	宮崎県串間市
34	2022	川南町	宮崎県川南町
35	2023	安比高原・遊々の森	岩手県八幡平市
36	2023	冬師湿原	秋田県にかほ市
37	2023	鉢山	福島県南会津町
38	2023	玉原湿原	群馬県沼田市
39	2023	田島ヶ原サクラソウ自生地	埼玉県さいたま市
40	2023	箱根の仙石原	神奈川県箱根町
41	2023	ドンデン高原	新潟県佐渡市
42	2023	相倉集落	富山県南砺市
43	2023	菅平高原・峰の原高原	長野県上田市、須坂市
44	2023	霧ヶ峰	長野県諏訪市、茅野市、下諏訪町
45	2023	城と翁とスキーの基山の草原	佐賀県基山町
46	2023	中瀬草原	長崎県平戸市
47	2023	五島・鬼岳	長崎県五島市
48	2023	西原村	熊本県西原村
49	2024	高清水自然公園ひめさゆり群生地	福島県南会津町
51	2024	山中湖村明神山の草原	山梨県山中湖村
50	2024	小谷	長野県小谷村
52	2024	新庄村田浪郷土自然保護地区	岡山県新庄村
53	2024	くじゅう坊ガツル湿原	大分県竹田市